

共通する「無責任」と「不可視」の構造（茅野コメント）

青森のガラス固化体と使用済み燃料

- （知事の了承なしに）ガラス固化体の**最終処分地にはしない**（政府確約）＝貯蔵管理センター
- 使用済み燃料は核燃料サイクルの「**資源**」（業界の建前）＝事実上の中間貯蔵施設
- ガラス固化体の管理期間は**2045年**に終了＝24年後に迫っているのに行く先は決まらない

福島を除染廃棄物と除去土壌

- 除染廃棄物と除去土壌は**県外で最終処分**（約束、後にJESCO法に明記）＝中間貯蔵施設
- 土壌は本来貴重な「**資源**」（環境省の言い分）＝**県外最終処分量を減らすため？**
- 中間貯蔵施設に搬入した廃棄物や土壌の搬出期限は**2045年**＝24年後に迫っているのに行く先は決まらない

各地の使用済み燃料

- 再処理工場ないし**中間貯蔵施設へ**（サイト内乾式貯蔵推進の声も）

中間貯蔵施設（おつ市）

- 50年の貯蔵期間後、**再処理工場へ**（稼働が大前提の受け入れ）

再処理工場

- 24回の操業延期
- プルトニウム問題

汚染水

（海水で**希釈**されれば環境基準を下回る）

除去土壌

- 「ある程度、放射能濃度を下げれば被曝線量は1mSv/yになることが分かっているので、やはり**希釈**という考えも必要かなということが指摘されると思います。」（中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会（第4回）、2016.6.7）

核廃棄物関連のテーマ（第5回、第6回、第11回） ご参加いただいた皆様からのコメント

- 日本の原子力政策が全体を見通したものではなくある意味では場当たり政策であることがよく分かった。（第5回終了時アンケートより）
- 多くの方が、基本的な事実を自分の言葉で語れるようになっていけるように何かしたいと思っています。（同第5回）
- 時間の経過とともに事故による放射性廃棄物への関心が低くなっていると感じます。（同第6回）
- 今の科学技術では「地層処分」はあまりにも無責任だと思えます。高レベル放射性廃物は「どうにかしたいけど、どうにもならないもの」だと思えます。（第11回ご質問より）
- 地元のあらゆる活動に立地交付金が入っている為、それが無くなることへの恐怖は、とても大きいのが現状です。使い道を卒業や新たな産業誘致や創出へ限定し、若者が、そのための智慧を出しやすい方向性を明示した新たな制度ができるといいのでは。（第11回終了時アンケートより）
- 原発ゼロ社会を考えると、本日の話題の中で出ていた立地地域の若者の様子を、お聞きし、その方々とも一緒に話し合える、それぞれの意見を述べていただき、知る機会があると良いのではと思いました。（同第11回）
- ここで得られた成果を、原子力学会など原子力村そのものへ切り込み訴える活動ができないでしょうか。結局議論が別々の場で行われている。（同第11回）